

マネジメントチーム News

令和5年3月号

第3回マネジメントチーム地域連絡会を開催しました

今回も地域によって、さまざまな課題について活発な意見交換ができました。



●西讃地域

2月10日

初参加の方もいたので、サポート委員さんの紹介をしました。また、地域の方から兄弟児のピアサポートの場の情報提供を求められていたので参加者に問いかけました。情報はなかったのですが、ニーズに応えるために会の運営と場所の提供を申し出してくれるメンバーさんがいて、感謝の気持ちでいっぱいです。

参加人数が多かったので話し合いは子ども期と大人期の2つのグループに分けました。子ども期は学校と学童の連携の難しさや、市役所内の多課との連携の難しさの話が出ました。また、不登校の児童が外に出るハードルの高さや加配をつけるための制度上の問題の話がありました。発達障害の困り感への対応について助言してくれる方の情報や居場所の情報提供があり、地域会で色々な職種の人が集まれるメリットを感じました。

大人期も他機関との連携の難しさ、制度やサービスの情報不足のために連携出来ないケースがあったこと、利用者さんのニーズを伝えても、事業所の対応に差があり、伝えることの難しさについて話がありました。社会資源の少なさや人手不足の困り感も語られました。ひきこもりの人に居場所に出てきてもらう難しさ、居場所の情報などをどのように伝えたらいいかの話も出ました。

困難さのある中でも、メンバーさんたちが知っている情報を出し合うなど、とても雰囲気の良い会となりました。



●中讃地域

2月3日

地域会に初めて参加される方もおられ、自己紹介から始まりました。テーマは設けず、日ごろの業務で感じていることや、こういう時はどうする?など、皆さんからたくさん意見が出ました。児童の性行動について、保護者との関わり、各機関との連携の必要性等のテーマが上がりました。

児童の性行動に対する理解・関わり方では、なぜそのような行動をしているのかという視点で不安が強い? 満たされていない部分がある? などアセスメントの必要性の話がでました。また、感覚遊びや固有感覚を満たすためのスクーターボードやセラピーボールの導入の提案や事業所内での検討だけでなく医療との連携の話も出ました。

医療機関従事者の方から健診後や放課後等デイサービス利用の為に医療に来る保護者のニーズが明確でないという話もあり、医療の現状も共有することができました。

会が終わった後も質問や支援の共有などができ、実際に顔を合わせてお話しできる良い機会となりました。



● 高松・東讃地域

2月8日・15日

今回は Zoom での開催となりました。参加者の方の自己紹介、アルプスで実施した成人期調査の結果概要の報告を経て、会では様々な意見が交わされました。会では以下のような話題が挙がりました。

- ・ 成人期調査からは、義務教育修了後の方を支援する機関では、「かけはし」の利用頻度が低いという実態が確認されました。「小学校への引継ぎがスムーズになるよ」等を保護者に伝えて、作成してもらうことや、「かけはしも相談に持って来てください」など教育だけでなく福祉の側からも、「かけはし」を使うことや作ることにについて、より提案する必要があるのではないかという話になりました。
- ・ 幼児期の対応について、私立園では加配の手続きが公立とは違っていて、配慮が必要な子どもに園として対応することに限界を感じている様子や、職員に研修を受けさせたいが、人手が不足していて、それも難しいことなどが出されました。
- ・ 中学校→高校の引継ぎについて。本人や保護者の了解が得られれば引き継いでいくようになっていきます。通常校に進学するケースでは引継ぎを断られることも多く、本人等が支援の必要性をどこまで理解しているかが心配です。
- ・ 高校は、持っている情報が少ない傾向があります。「かけはし」の自己申告も少ないようです。そのため、入学時には何ら情報が無いが、入学してから教師が気付くケースが、年に10数人は出てくるそうです。
- ・ このことに関して、縦の連携（中学→高校など）だけでなく、横の連携を進めていくことが大切かと思われます。最近では、自分たちが発信する以外の形、一緒に考えようという形が増えてきているようです。双方向のシームレスな連携を進めたいと思います。



- ・ 成人の発達障害者の中には、不健康な生活習慣の方もいる。そういった方に向けて、生活習慣病、運動の仕方を教える場が必要だとの意見も出ました。

● 小豆地域

3月2日

メンバー2名（医療機関 ST と圏域の保健担当の方）に加えて、圏域の行政担当の方1名、相談支援専門員の方2名と、地域支援マネージャー1名の6名で楽しく情報交換しました。

前半は、放課後等デイサービスの現状についての話題になりました。放デイは、障害児の居場所として保護者が作ってきたという歴史的なベースがあり、保護者のニーズが大きく影響するようです。また、午後3時くらいからの稼働で、実際に対人援助をしている時間は短いので、スタッフを大勢かかえることは難しく、スタッフのスキルアップなどサービスの質を高めるにも限界があるそうです。

後半は、移住者の話題でした。移住者が増えてきてコミュニティが生まれますが、そこにしか属さず、地域に馴染もうとしない家族もいます。地域とのつながりが希薄で、支援が必要になっても見えづらいので、従来の地域コミュニティでサポートすることが難しくなっています。



※支援活動の中で困ったり悩んだりしたメンバーの方は、メンバー専用相談窓口を是時ご活用下さい！

詳細はマネジメントチームメンバー専用のホームページにある、「メンバー専用相談窓口のお知らせ」

(<http://www.kagawa-reha.net/pdf/membersen.pdf>) をご参照下さい。



香川県発達障害者支援センター『アルプスカガワ』
かがわ総合リハビリテーションセンター
地域生活支援部 総合相談科



香川県ふじみ園
相談支援センター